回覧

Yashio Gesuido

2026

特集

綾瀬川の生き物

～八潮の川をウナギが泳ぐ～



（表紙）帝京科学大学・水圏同好会様（続き3P）

綾瀬川は、八潮市の西部を流れる一級河川です。この川には源流がなく、田んぼの水や家庭から出る生活排水が流れています。昔は、舟運により多くの船が行き交い、川魚の漁も盛んに行われました。しかし、都市化につれて水質が悪化し、1980年代には日本で最も汚れた川になりました。その後、国等による浄化施設の設置や下水道整備、市民による清掃活動等が行われ、水質が改善されてきました。

現在、八潮市の大曽根には、ビオトープが整備されています。ビオトープは「生物の生息する場所・育成する場所」という意味の言葉で、綾瀬川の生き物のすみかの一部になっています。

市民の力でウナギが戻ってきた！

ビオトープの日常管理を行っている市民団体の方に、活動内容のお話を伺いました。





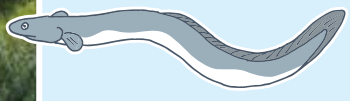
▲綾瀬川のウナギ

（取材協力）大曽根の湿地ビオトープを守る会
左から戸高さん、髙橋さん、金沢さん、荻原さん

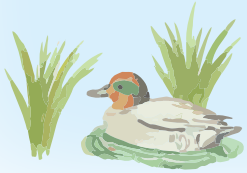
「ビオトープは、自然を保護する場所です」

大曽根ビオトープは、元々存在した湿地を保護するため、2007年に整備されました。綾瀬川とは水路で繋がり、水質や生態系の保全に役立っています。綾瀬川の変化を肌で感じてきた代表の高橋さんは「ウナギも見かけるようになった」とほほ笑みます。現代の八潮に、天然ウナギがいるとは驚きです。





◀大曽根ビオトープ
せせらぎ池





「大曽根ビオトープは地域で作り上げました」

自然保護のためのビオトープ。しかし「人の手入れは必要だと思う」とメンバーのみなさんは話します。中でも大変な作業が「かいぼり」です。かいぼりは、池の中の植物や底に溜まった泥を掻き出す作業で、水の流れが塞がってしまうのを防ぎます。会のみなさんは「活動は泥だらけになり大変です」と苦笑いです。一方で「子どもたちの環境学習に役立っていると思う」と充実した表情も見えました。大曽根ビオトープは、近隣の小学生が授業で訪れることがあり、自然を学ぶ場所でもあります。

「ビオトープがあることを、もっと知ってほしい」

会では、新しいメンバーを募集しています。やりがいのある作業ですが、参加者の減少等により、今後のビオトープの管理が厳しい状況です。「市民まつりで、当会のブースを出しています」と、会のみなさん。まずは、大曽根ビオトープについて多くの人に知ってもらいたいと願っています。

大学の生態調査でも綾瀬川の環境は◎

ビオトープの生態調査を行った学生の方に、生態系のお話を伺いました。

「フィールドを通じ、実際に目で見て環境を学んでいる」

北千住にある帝京科学大学。この大学の水圏（すいけん）同好会は、都内や八潮市の河川のかいぼりと生態調査を行っています。代表の加納さんは、川に入るための行政手続きも自ら行います。「僕たちの活動は、生き物を知ることから始まる」と、机上ではなく実物の生き物を見ることに注力しています。

「綾瀬川の環境は良い状態で、悪い臭いもない」

同好会で大曽根ビオトープのかいぼりに参加した際、池の底の泥が田んぼのように軟らかくて足が抜けにくかった。これは、微生物が酸素を使って汚れを分解できている状態という。「植物の根っこを抜いている時に、足に何かいるんです。揚げてみると蟹でした！」と振り返ります。クロベンケイガニは、地中に穴を掘って生息します。コンクリートの護岸が多い綾瀬川では、大曽根ビオトープは貴重な生息場所になっています。



（取材協力）帝京科学大学・水圏同好会
左から 加納さん、土田さん

「きれいな川にすむカワアナゴが見つかった」

「珍しい魚では、きれいな川にすむカワアナゴが見つかり、みんなすごく喜んでいました」生態調査の結果、大曽根ビオトープは外来種が少なく、カワセミなどの野鳥も生息していました。採取した生き物について尋ねると「川に返します。生態調査として飼いたかったですね（笑）」と、少し残念な表情でした。そんな加納さんは、ウナギを研究しており、趣味でウナギを釣ったり、自分でさばいて食べたことがあるそうです。「将来は、ウナギのエサを開発したい」と未来を見据えています。

水域ごとに生態をまとめた冊子▶





綾瀬川の生き物たち

アサザ（黄色い花・絶滅危惧Ⅰ類）
アオモントンボ





キイトトンボ
（準絶滅危惧）

ドジョウ（絶滅危惧IA類）





チョウトンボ（準絶滅危惧）



テナガエビ
（留意種）



ミズカマキリ
（絶滅危惧Ⅱ類）



クロベンケイガニ（留意種）

（写真提供）足立区桑袋ビオトープ公園
※絶滅危惧の分類は東京都レッドデータブック（本土部）2023に準拠しています。



もっと知りたい！

あやせ川清流館へようこそ！

大曽根ビオトープの対岸には、足立区の桑袋ビオトープ公園があります。この公園には「あやせ川清流館」があり、綾瀬川の生き物について学ぶことができます。周辺に住む子どもたちや、高校生の課外授業など、年間を通して多くの人が訪れます。

（取材協力）足立区桑袋ビオトープ公園





「自然に触れる機会がない方も、自然への興味を深めたい方も楽しめる施設です。八潮市の方もお気軽にお越しください！」（公園自然解説員　増山さん）

綾瀬川の生き物を守るために私たちができること



▲綾瀬川のウキゴリ

1 かいぼり活動に参加しよう！

かいぼりは、ビオトープの水質浄化機能を維持するために必要な作業です。大曽根の湿地ビオトープを守る会の活動に参加いただける方は、市ホームページをご覧ください。

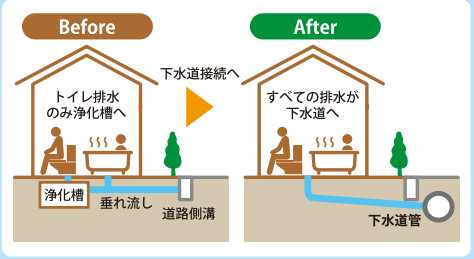


市民団体情報

このイラストは、生成 AI 技術で作成したイメージです。

2 下水道を活用しよう！

下水道は、汚水を高度処理によりきれいな水に再生できます。2001年以前の建物では、キッチンやお風呂の排水は垂れ流しの場合があります。
下水道が使用できる地域にお住まいの方は、早めに下水道に接続しましょう。



下水道が使用できる区域

下水道は、私たちが共有する大切なインフラです。下水道にゴミや油脂等を流すと、下水道施設を傷めたり、詰まって使えなくなってしまいます。
下水道を永く安全に使用するためにも、一人ひとりの心配りをお願いいたします。

再生紙使用（古紙パルプ配合率 60%）
ベジタブルオイルインク使用

やしお下水道だより 2026年号　令和8年9月 発行
発行・編集／八潮市下水道課
〒340-8588 八潮市中央1-2-1 電話 048-996-2111（代）